

教材・支援機器活用実践事例(特別支援学校)

実践年度・タイトル		平成28年度 弱視生に対してのICT機器を活用した授業事例
授業について	教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合は他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 道徳 <input checked="" type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	Unit4「To Our Future Generation」Part4
	授業の目標	① want + (人) + to動詞の原形を使って、英文を読んだり書いたりすることができる。 ② 本文を読んで、その内容や登場人物の思いを理解することができる。
	観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)	<input type="checkbox"/> 「知識・理解」 <input type="checkbox"/> 「技能」 <input checked="" type="checkbox"/> 「思考・判断・表現」 <input type="checkbox"/> 「関心・意欲・態度」 <input type="checkbox"/> その他() ・あらずじや大切な部分を読み取り、その根拠となる箇所を説明することができる。
学習集団と子どもの実態	学校・学部・学年・人数	<input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない 3年 1人
	対象の障害	<input checked="" type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子どもの課題 (特性・ニーズ)	<input checked="" type="checkbox"/> 見る <input checked="" type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input checked="" type="checkbox"/> 読む <input checked="" type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 計算する <input type="checkbox"/> 推論する <input type="checkbox"/> 運動と姿勢 <input type="checkbox"/> 日常生活活動 <input type="checkbox"/> 不注意 <input type="checkbox"/> 多動性・衝動性 <input type="checkbox"/> 社会性・コミュニケーション <input checked="" type="checkbox"/> 覚える・理解する <input type="checkbox"/> その他 ① 弱視であり、黒板の文字を速やかに書き写したり、スベルを覚えて書いたりすることが苦手である。 ② 音声教材等を使用することにより、理解を深めやすい。 ③ スマートフォンやタブレット端末に興味をもっており、基礎的な操作方法を習得している。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称と画像 (使用した支援機器・教材の名称を記載し画像を挿入。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)	・iPad2(Apple) ・Power Point(Office) ・タブレットアーム ・教科書付属の音声CD
	活用のねらい	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input checked="" type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input checked="" type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) <iPad、タブレットアーム> 単眼鏡を使って板書事項を書き写す際は、単眼鏡の操作とノートへ書き写す繰り返しの動作が多く、時間を要してしまうため、iPadのカメラ機能を使用し、撮影した板書事項を手元に近いところで拡大・スライドをさせ、書き写すようにすることで授業の効率性を高める。 <Power Point> モニタに英単語・熟語などのスライド画面を表示させ、一語一文に絞った提示をすることで、今行っている課題に対して集中して取り組むとともに、イントネーションや強調する部分を色分け・反転させることで、ポイントを絞った学習への効果に期待する。
授業に授業者展開支援	授業展開と画像 (授業の様子、ICT活用場面の画像を挿入。)	授業時数: 3時間 ① iPadのカメラ機能を使った宿題の確認 ② パワーポイント教材での新出単語の学習 ③ 本文リスニングと内容読解 ④ 演習問題と文法のポイントを説明(パワーポイント教材)
効果・評価	子どもの様子や変容および授業の評価	・スマートフォンやタブレット端末に興味のある子どもにとって、それを使用することにより学習自体に興味関心を向上させることができる。また、手書き資料とは異なり、色分けや反転・効果音などにより、意識や集中を高めることができている。そのことで、明確な学力の向上とまではいかないが、学習に取り組む意識が改善され、授業に取り組む姿勢に変化が見られてきている。 ・Power Pointの資料を作成するには、多少の製作技術と時間が必要となるが、個人だけでなく集団での学習場面においても十分活用でき、学習効果があると考えている。